

トリチウム処理水処分方法

東京電力の川村会長は福島民報社の五日のインタビューで、福島第一原発で高濃度汚染水を浄化した後に残る放射性トリチウムを含んだ処理水について、処分方法を絞り込んでいる国の結論を待つ判断する考えを示した。小早川智明社長は福島第二原発の廃炉に当たっては、判断理由を多方面に説明する必要があったとした。

「福島第一原発のトリチウムを含んだ処理水の処分で、原子力規制委員会の更田豊志委員長は海洋放出が最善との認識を示しながら「国の結論を待っている」としては進まない」として、東電に主体的な判断を求めている。どのように受け止め、対応するのか。

東電 川村会長、小早川社長インタビュー

「国の結論待って判断」

受け止めているし、時間がかかっているのも申し訳ない。昨年、社内にみらい経営委員会を設置し、原子力だけでなく火力、水力、再生可能エネルギーなど五十年以上先の電力供給の形態も含めて検討している。会社として非常に重い判断としては非常に重い判断で、最終的な判断理由はさまざまな関係者に説明している。私がしっかりと検討していることだけは申し添えたい。一年前の説明と何も無くすことだ。

川村会長 この先、二

十年というオーダーで使えそうなのは柏崎刈羽原発と福島第二原発ということになる。将来的に再生可能エネルギーが原子力に代わる電力源となるのか、さまざまな意見があり、確信のある答えがすぐには出ない。原子力を何らかの格好で残して

小早川社長 「核のごみ」の最終処分場選定に関する広報については東電も当事者で、意見交換会では社員が登壇して話すこともある。今回の件は、手続的な問題があったのではないかと感じた指摘を受けている。経緯を調査中だが、われわれが電力会社の関係者と分かる形で意見交換会に出るべきだろう。その上で、誤解を招く行動があるのならば正していく。

小早川社長 社内での企業倫理委員会に報告し、しかるべき段階で公表したい。

田委員長に求められているのだと思う。ただ、理解を得るべき関係者はかなり広範囲で意見もさまざまだ。国の委員会には「社内ですべての検討し、最終的な判断理由はさまざまな関係者に説明している」としているが、検討の中身を全く明らかにしていない。なぜ進まないのか、今後どうするだけば申し添えたい。

川村会長 この先、二

おく必要があるのではないかと、というのが現時点の考えだ。

小早川社長 「核のごみ」の最終処分場選定に関する広報については東電も当事者で、意見交換会では社員が登壇して話すこともある。今回の件は、手続的な問題があったのではないかと感じた指摘を受けている。経緯を調査中だが、われわれが電力会社の関係者と分かる形で意見交換会に出るべきだろう。その上で、誤解を招く行動があるのならば正していく。

小早川社長 社内での企業倫理委員会に報告し、しかるべき段階で公表したい。